

大同工大キャンパス

No.66

2008.11

DAIDO CAMPUS

02 学生の勇姿! / 06 元気印の卒業生⑦ / 06 Another Real Face ⑤ / 07 やるじゃんトピックス!! / 09 新任教員紹介
10 学科・専攻・研究室ニュース / 12 トコトン先生大活躍! / 16 新刊書出版 / 16 DIT スケジュール / 16 人事

07 マスコミが評価する就職力。



写真提供：アルバム委員会



第6回全日本学生フォーミュラ大会 コスト審査で、見事1位に輝く!

9月9日(火)～13日(土)、静岡県のECOPA・小笠山総合運動公園で第6回全日本学生フォーミュラ大会が開かれました。

今回で5回目の挑戦となった大同フォーミュ



DFPリーダー中嶋和人君 (機械工学科4年)

「自分で作った車を走らせたかった!」

夢や希望に向かって頑張る学生を紹介する番組「夢、未来!」(東海テレビ・日曜朝8:55～放送中)に7月20日(日)、フォーミュラプロジェクトチームのリーダー中嶋君が出演しました。

毎年全国から多くのチームが参加し行われる全日本学生フォーミュラ大会。この大会に向けて日夜、車両制作に奮闘する中嶋君の姿が紹介されました。

中嶋君が初めてこのプロジェクトに参加したのは2005年、1年生の時です。その年の大会ではみごと完走し、総合20位。しかし、2006、2007年と完走できず途中リタイアという結果に…。「想像してもしないようなところが壊れるので…」の言葉通り自動車製作は厳しい世界。しかし、「自分で作った車を走らせたかった!」という夢があるからこそあきらめず、がんばれるそうです。「7割くらい辛くて3割くらい楽しい」と語る中嶋君ですが、車両製作に打ち込む姿は辛いことも吹き飛ばしてしまうくらい夢であふれていました。



ラプロジェクト(DFP)。最終競技の「エンデュランス」では05年に完走し、総合20位になって以来、不運もあって、完走できていない。ここ2年間の悔しさを胸に迎えた今大会は、エンジンの燃料噴射に新たな制御技術を盛り込み、昨年度比でおよそ2倍以上の最高出力を得る車両に仕上がった、ターコイズブルーの「DF08」で完走を目指しました。

大会本番。参加車両のおよそ1/4が通過できないと言われている「車検」をクリアし、「静的競技(3種目)」へ。その競技種目のひとつ「コスト部門」で、見事1位(65チーム中)に輝きました。このコスト審査は、パーツの価格のほか、

作業工数を金額に換算したレポートとプレゼンテーションにより評価されるもので、既製品を使用するのではなく、極力手作りで仕上げる彼らのスタイルが結果として表れました。

そして「静的競技」を終え、いよいよエンデュランスを含む「動的競技(5種目)」へ。

結果は残念ながら完走できず、リタイア。総合順位は28位に終わりました。

大会後、「結果として報われなくても、この経験は必ず将来に活きるはず」とDFPメンバーに話す鈴木桂輔准教授(機械工学科機械工学専攻)。涙を浮かべて悔しがっている彼らの姿は、1年間努力し続けてきた証明だ。



ハンドボール部

西日本学生ハンドボール選手権大会 (西日本インカレ)

見事、3位に輝く!

8月5日(火)より兵庫で開催された西日本インカレ。予選リーグを全勝で勝ち上がり決勝トーナメントに進みました。準々決勝の相手は宿敵・中部大。前半10-15とリードされるも、後半7連続得点で一気に逆転し、29-27で撃破しました。

準決勝はあの「伝統ある優勝常連校、大阪体育大学」。前半序盤、両者とも一歩も譲らず激しい攻防が続き6-6と接戦。中盤も大体大のロングシュートやサイドシュート、大同工大山村将晃君(都市環境デザイン学科3年)のサイドシュートなど両者点の取り合いで11-11の同点。終盤、苦しい展開から抜け出したのは大同工大。わずか1点差ではあるが15-14とリードして前半を折り返しました。

後半序盤、大体大の連続得点で逆転を許し、17-19で大体大がリード。中盤、大体大が多くのシュートチャンスを掴むが、今大会で好調のGK構田雄介君(建築学科3年)が好セーブをみせチームを助けましたが、依然21-23で大体大リード。



日本代表コーチの経験もある本学の佐藤壮一郎監督のコメントが、9月1日(月)の読売新聞に掲載されました。



與後佑樹君(情報学科2年)

終盤、激しい攻防が続きましたが確実に得点を決めた大体大に25-29で敗れました。

なお、ベスト7にGK構田君が選ばれました。

東海学生ハンドボール秋季リーグ 悔しい3位。

創部4年目の2003年春季リーグで初優勝を飾って以来、タイトルから遠ざかっているが、かつてない大型のメンバーで春季リーグ3位、西日本インカレ3位と着実に力をつけてきた今シーズン。5年ぶりのリーグ優勝を目指し臨んだ秋季リーグが、8月31日(日)より開幕しました。

順当に勝ち上がり迎えた、4大学のリーグ戦による「プレーオフ」。名城大に勝利するものの、中部大・中京大、共に後半逆転され、1点差で敗れました。結果は悔しい3位。しかし、次に山口県で開かれる「全日本学生選手権(インカレ)」の出場権を獲得している彼らは、雪辱を誓い、チーム一丸となって上位を目指します。

なお、ベスト7に濱田竜士君(機械工学科3年)が選ばれました。

丹羽孝晴さん(大学院工学研究科修士課程機械工学専攻2年)

アメリカ短期留学を振り返って



面白かった。終わってみると、これが一番の感想です。

アメリカに着いてすぐの入国審査で、帰りたくなりました。というよりもアメリカに入国

できない気がしました。管理員の英語がまったく聞き取れず、また本に載っているような入国の時の会話が一切ありませんでした。今思うと、このときに電子辞書を使っていればよかったと思います。そのときはパニックで、そんなことを思いつく余裕がありませんでした。

オレゴン大学は広いところでした。敷地内にサッカー場、陸上競技場などがあり、講義を受けるために校舎を移動するのも疲れるくらいです。私たちはその中の一つの寮に入り、3週間生活することになりました。私は、参加したメンバーが奇数だったため、二人部屋に一人で生活することになりました。このことが後



で大変なことになるとも知らずに、始めはラッキーだと思っていました。

Oral Skillsでは、アジアの国々からオレゴン大学にAEIとして留学している人たちと講義を受けることとなりました。彼らは母国語を一切使わず英語のみで、必死に他の国々の人と会話していました。そんな姿を見ていたら、私ももっと努力しなければと思い、電子辞書を片手に積極的に会話するようにしました。会話を通して思ったことは、彼らはなんて明確な将来を考えているのだろうと思いました。私はもう就職活動を終わってしまいましたが、もう少し自分の夢に向かって努力していたらよかったのかなと、彼らを見ていて思いました。そして今後の研究活動や、社会にでてからの自分自身について、ここで出会った彼らの一生懸命さを見習っていかなければならないなと思いました。

3週目になり、ある程度オレゴン大学での生活に慣れたときに、一つの出来事がありました。二人部屋を一人で使っていたおかげでしょうか、なんと新しいルームメイトができました。初め聞いたときは、もう訳がわからなかったのですが、どうせ1週間だけのルームメイトだと思い気楽に考え、このハプニングを受け入れることにしました。ルームメイトは韓国からの留学生ですが、英語を話していたため、寮に戻っても会話が英語、という生活が始まりました。日



本語だと世間話も簡単にできますが、英語だと簡単な自己紹介程度の会話ぐらしかできず、話を広げようとしても、英語を1つ1つ調べなければなりません。思うように会話もできず、1回1回の会話でも、ものすごく大変で苦労しました。私はへたくそな英語でも一生懸命話しようとして毎日努力していました。ただ、部屋に戻ったときに彼の友達が5、6人居て彼らの母国語で喋っていたときだけは、さすがに部屋から逃げ出しました。



私にとって2回目となった今回のアメリカ短期留学も、苦労する場面が多かったですが、いい刺激を受け、他では体験できないようなことがたくさんあり、積極的に参加してよかったと思います。

最後ではありますが、引率して下さった小西准教授(教養部外国語教室)、都築さん(学生室)、一緒に参加した12人の仲間、そしてアメリカでの生活でお世話になった方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。

及川大樹君(機械工学科3年)

ラグビー部キャプテン、夢語る。

現在東海テレビで、夢を目指して頑張っている学生を取り上げる番組「夢、未来!」が放送されています。

この番組のプロジェクトを立ち上げたスポンサー(つまりぬき24)の瀬浪清志社長、番組づくりに携わる伊藤順子プロデューサー、そして記念すべき第1回の放送に登場した及川君が、それぞれの立場で思いを語った対談の様子が、8月



24日(日)の中日新聞に掲載されました。

及川君は日本代表クラスや、日本トップの成績で活躍している学生など、多くの番組出演者の中から「まじめさ・素直さ・笑顔」が高く評価され、今回の大抜擢となりました。

夢を目指す若者の代表として参加した及川君の笑顔は、瀬浪社長のことは「夢を描けば、未来は楽しい。」を証明していました。

硬式野球部

完全優勝。

9月より開幕した「愛知大学野球秋季リーグ戦(5部)」で、本学は完全優勝を果たしました。

個人タイトルもすべて、本学が獲得しました。
MVP: 谷出基貴君(都市環境デザイン学科2年)
最優秀投手賞: 河邊陽介君(電気電子工学科4年)
最優秀打撃賞: 山口智也君(建築学科2年)





クラブ委員会主催 レガッタ大会

11月2日(日)庄内川ボートコースにおいて、第45回錦杯学内レガッタ大会が開催されました。早朝から冷え込んだ中、今年度はクラブの部が24チーム120人、一般の部が15チーム75人の195人が参加しました。現役大同生からOB・OGまで幅広い年齢層の中、優勝目指して各チームが力いっぱいボートを漕ぎました。今年度は大会前の練習回数を増やしたことが影響したのか、昨年まで見られたスタート地点にたどりつくのも一苦労!?といったチームはなく、逆にゴール直前まで接戦を繰り広げるレースが多く、とても白熱したレガッタ大会と



なりました。学生時代の記念・思い出作りにとみんなしっかり汗を流していました。

また今年度は、奥村博司理事長がお見えになり、学生たちの活気に溢れた様子をごらん



なっていかれました。閉会式では急遽挨拶をいただき、第45回レガッタ大会をしっかりと締めさせていただきました。学生たちはいつにもまして、レースに打ち込めた気がします。

【成績結果】

| クラブ部 | 順位 | チーム名 |
|------|----|--------------------------|
| クラブ部 | 1位 | やらないか (E.D.P.S.部) |
| | 2位 | チームめがねっこ (モーターサイクルスポーツ部) |
| | 3位 | スキー部B (スキー部) |
| 一般部 | 1位 | 山田錦 (吹奏楽団卒業生) |
| | 2位 | ぞうさんときりんさんとアルベルト (松浦研究室) |
| | 3位 | 大同インテリジェンス (教職員) |

坂知憲君 (機械工学科4年) 野村知広君 (ロボティクス学科1年) 「青少年いきいき体験」に参加。

自ら考える力や豊かな人間性をはぐくみ、郷土愛を深める試み「青少年いきいき体験」に坂君と野村君が公募で選ばれ参加。それぞれチームリーダーを務めました。

これは、8月18日(月)から22日(金)の5日間、公募で集まった中学・高校生とチームをつくり、東海市 (名鉄太田川駅) を発着点に姉妹都市の釜石市や仙台市、東京都を巡って体験を報告するもの。

10月9日(木)に東海市役所で開かれた報告会には、東海市教育委員長の水野義雄教授 (教養部保健体育教室) も参加。各チームごとに釜石での史跡巡りや坑道体験、わら草履づくりなどの体験を報告し「仲間や協力することの大切さを学んだ」「多くの人の親切で楽しく旅ができた」などと成果を話しました。



中日新聞 (9月10日)

橋口研究室 (情報機械システム工学科)

第12回 びわ湖クルーレスソーラーボート大会

この大会は、「ソーラーエネルギーを利用した無人ボートを製作し、スピードおよび技能を競う」もので、国内のロボットコンテストと比較しても技術的には大変高度ですが、知名度が低い「知られていないロボコン」の1つです。この大会には、25mプールで直線スピードを競う「普及部門」と、びわ湖 マキノ町サニービーチと竹生島の往復約20kmを走行する「先端技術部門」の2つの部門があり、本学のボートが昨年、今年と出場しているのが「先端技術部門」です。

船名を「3号艇」と「4号艇」と名付けた今年の2艇のボートは、一艇は「自律制御を重視し、無難な形状の船」。もう一艇は「他にない面白さを持ったチャレンジングな船」といったコンセプトで製作。

競技は8月23日(土)、24日(日)それぞれに1回、計2回行われるのですが、1日目は強風と雨により中止。2日目も竹生島付近の強風と波のため、レース途中で中止になってしまいました。結果は途中までのスコアで決まり、東京大学大学院、立命館大学、ユニメック(株)など9チーム中、本学3号艇は4位。何とか入賞はできましたが、今年の3号艇は、防水性能が高い=密閉度が高いので空気が入り替わらないため、モータが熱ダレし途中で回らなくなってしまう…、風が強くと、船首は目的地方向に向いているのに横に流され



一向に近づけない…、波による上下運動が激しく、他のチームの船は転覆しリタイアに…といったトラブルも。

しかし、これらの経験から「熱」と「風」と「波」、この3つが今後の課題であることが明確になり、「問題点が明らかになったので、来年はもっと上位を狙える」と佐藤文彦さん (大学院工学研究科修士課程機械工学専攻2年) は力強く話してくれました。

そしてうれしいことに、昨年の大会に出場した卒業生達が全員 (!) 集まり、手伝ってくれたのです。みんな作業している時は大変でも、実際に大会に行くと楽しくなるそうです。「これからも毎年出場していきたいです!」と話す橋口講師。きっと来年もたくさんの卒業生が



応援に来てくれるのでしょうか。
*「自分も参加したい!」という人は是非橋口宏衛研究室 (工学部ロボティクス学科) に連絡を。昨年も今年も、研究室外の学生 (有志) が参加しています。

自動車部

河村真太郎君 (機械工学科3年)

依田哲也君 (情報機械システム工学科4年)

「全日本学生ドリフト王座決定戦」で
3・4位に輝く!



8月13日(水)、日光サーキットで開かれた「第7回全日本学生ドリフト王座決定戦・東大会」に本学自動車部が今年も参戦。エントリー総数180人、参加100人のなか、部長の河村君が3位、依田君が4位に輝きました。

その様子が、雑誌「ドリフト天国 (2008.10)」で大きく紹介されました。

佐藤研究室 (電気電子工学科)

大東・堀内研究室 (都市環境デザイン学科)

岩木呂研究室 (情報デザイン学科メディアデザイン専攻)

学生環境サミットに参加、見事3位に輝く。

学生会執行委員会主催

体育大会

10月13日(月)、14日(火)の二日間にわたって、今年度も体育大会が開催されました。13日(月)には、サッカー、バドミントン、テニスが行われ、14日(火)にはフットサル、卓球が行われました。14日はあいにくの雨でソフトボールは中止となりましたが、二日間にわたっておよそ380人の学生が参加し、それぞれが楽しい思い出を作ったことだと思います。1つの競技に真剣に打ち込む学生の姿は、活気に満ち溢れていました。素晴らしい学生イベントになりました。

【成績結果】

| | |
|--------|--|
| サッカー | 1位：4年連合 2位：FC.チョコピランガ 3位：きなこもち |
| バドミントン | 1位：なかたんず 2位：ほのほの♪ 3位：赤い屋根の大きなおうち |
| テニス | 1位：なし 2位：リトルバスターEX 3位：リトルバスターズ |
| ソフトボール | 雨天中止 |
| フットサル | 1位：優勝スルーズ 2位：JK大好き 3位：- |
| 卓球 | 1位：くりき and MOGE浩 2位：隠虎千神 3位：BABI |



北海道稚内の南東約90kmのクッチャロ湖畔で開催された「学生環境サミット」に本学、東京農大、青山学院大、東京大、早稲田大など19校100人の学生が集まった。本学からは、佐藤研究室、大東・堀内研究室、岩木呂研究室の学生19人が自主的に参加。9月1日(月)から7日(日)の7日間、浜頓

別町内の大自然に飛び込んだ。11チームにわかれ、様々な体験活動に挑戦しながら、クッチャロ湖の保全・保護や浜頓別の未来について提言をまとめた。

最終日、環境・エコなどに興味のある地元の町民などが集まった、浜頓別中学校体育館での発表会。結果は、佐藤研究室が見事3位に入賞しました。

なお、10月30日(木)、本学ゴビーホールで「学生環境サミット報告会」を開きました。



ゴビーホールでの報告会

ロボット研究部

ROBO_JAPAN2008

「子供靴で歩く2足歩行ロボット」が受賞

ロボット研究部は、10月11(土)、12日(日)に横浜市のパシフィコ横浜で開催されたROBO_JAPAN2008の中で、2足歩行ロボット競技大会の「第14回ROBO-ONE」に3台のロボットで出場しました。



子供靴で歩いたアリス (身長111cm)

今回は、114台の2足歩行ロボットがエントリーし、重量級(3kg以上)のロボット27台の中で「アリス」(西岡範見さん/大学院工学研究科修士課程機械工学専攻1年)は予選デモンストレーションで注目を集めました。これまでの2足歩行ロ

ボットのほとんどは大きな長方形の足裏を持ちますが、アリスは身長111cmと今大会で2番目の「抱え込む」大きさで、本物の子供靴を履いて歩くことに成功し、周囲を驚かせました。そして、その将来性を見込まれて「これからの活躍に期待賞」を受賞しました。歩行の動画は、ネットのRobot Watchの記事^(注1)で見ることができます。

アリスは、メディアの取材にも取り上げられ、翌日の10月13日(月)にクイーンズスクエア横浜で開催された「ロボットのいる暮らしコンテスト：第5回 ロボLDK」にも、ゲストとして出演しました^(注2)。

今回も大同工大ロボット研究部の名を広めることができた大会でした。

(注1) <http://robot.watchimpress.co.jp/cda/news/2008/10/22/1387.html>

(注2) <http://robot.watchimpress.co.jp/cda/news/2008/10/16/1375.html>

元気の卒業生

⑰

高砂工業株式会社 経営企画部システム開発課 係長
鈴木基晴さん (機械工学専攻 / 95MM / 西堀研究室)

本学大学院修士課程修了生が 学位(理学博士)を取得

私は1997年3月大学院修士課程修了後に入社した高砂工業(株)に勤務しながら2005年4月に国立大学法人 総合研究大学院大学(略して総研大)の博士課程に入学し、この春に修了しました。総研大は日本にある研究機関の研究所に設立されている大学院です。私の所属していた物理学研究科核融合科学専攻は核融合科学研究所(写真)に設置されており、教員は核融合研究所の職員が兼任しています。



そのため、学生よりも教員の人数のほうが多い大学院です。私の在籍していたときは25人の学生に対して51人の教員がいました。また、学生の半分を留学生が占めており、ロシア、中国、イランと世界各地から留学しています。

大同工業大学の学部と大学院修士課程では西堀研究室で超音波モータの研究をしていました。機械工学が専門であった私は物理学について素人であり、物理の基礎から学ぶこととなりました。総研大の授業は留学生が多いこともあり、ほとんどの授業が英語でされています。入学した当初は英語で行われる核融合の授業がほとんど理解できませんでした。1年ほど授業を受けると核融合や物理学の理解ができるようになりました。

大学院博士課程での研究はマイクロ波による金属粉末加熱の有限要素解析をしていました。電子レンジに使われているマイクロ波で

すが、最近ではセラミックや金属粉末の加熱処理に使用されています。そのマイクロ波による加熱を題材にして金属の粉体にマイクロ波を照射すると、どのように電磁波を吸収するかについてシミュレーションしました。シミュレーションの結果が良かったため、論文に掲載されて2008年3月無事に博士(理学)の学位を取得することができました。今後は、大学の研究を生かして電磁波のシミュレーションだけではなく、熱、流体、構造などのシミュレーションをして製品開発に役立てたいと思います。

鈴木基晴君の学位取得は、西堀研同期の近藤節哉君(95MM大信精機(株)勤務)が2005年3月に本学大学院博士課程で博士(工学)の学位を取得したことに続いており、喜ばしいことです。(西堀賢司)



総合研究大学院大学の学位授与式(左から土屋博士、大森博士、渡辺博士、私)

Another Real Face もうひとつの素顔

5

“自ら、楽しむ。”

僕は6歳からボーイスカウトを続け、もうすぐ15年になる。いまでは「富士章」と呼ばれる日本のボーイスカウトでの最高章を受け、国際派遣に参加、国際的な場においてもリーダー的な役割を務めている。そんな僕は今年の夏(7/21-8/11)、日本中から体力と技能やコミュニケーションに秀でた16人に選ばれ、アメリカのNew Mexico, CimarronにあるPhilmonto Scout Ranchにボーイスカウト日本代表として派遣されることになった。

僕がこの夏の大部分を過ごしたPhilmonto Scout Ranchは、大自然に溢れていた。当たり前のように富士山級の山が並び、コヨーテや熊、リス、ライオン、シカ、オオカミ、ガラガラヘビなど、おそらく大抵の人が図鑑や動物園でしか見ることのない野生生物に、手が届く距離で会うことができた。シートン動物記の狼、ロボの故郷でもある。

山下優人(都市環境デザイン学科2年)

しかしその分、想像を絶するほど過酷な環境だった。標高は常に5000フィート(1500m)ほどあり酸素は薄く、気温差も昼と夜では40℃も違う。30キロほどの荷物を担ぎ、120マイル(約200km)もの距離を、学び、体験し、考えながらクルー(仲間)と共に進む。道は獣道で、牛や馬もその道を利用し、ガラガラヘビも僕らを威嚇しながら横切る。川の中も歩くし、近道を信じ森の中も歩く。当然遭難もする。キャンプも森の中が基本だ。

そんな中でも毎日やることがある。木こりの仕事を覚え、昔ながらの方法で木に登る。食事をピックアップ(拾得)する。飲み水を作る。conservationに従事する。古式銃の扱いを覚える。中でも熊対策が大がかりで、匂いのする持ち物を全て袋に集め5mほどの高さの木に吊す。入れるものは食料に始まり、歯ブラシ、洗剤、食器や乾電池、カメラのフィルムにまで及ぶ。30キロ近い袋3~4個を5mの高さまであげるのは一筋縄では

いかない。

まさに非日常的な生活を

送った時間だったが、ここで大きく学んだ事がある。僕は何でも着手したことは「キッチリ」やりきらなければならないと思う。例えばサークルのような活動でも、その活動を続ける限りは、真剣に取り組まなければならないと思っている。しかし、その根底には実は楽しむことがあるのだと学んだ。スカウトランチにいるレンジャー達は過酷な環境にいるにも関わらず、楽器を演奏したり、歌ったり、みんなを笑わせ、楽しんでいた。これは人生においても同じではないだろうか。“自ら楽しむ”、当たり前な気づきだが、この気づきにはこの世から自殺を無くし、Karoushiという英語を廃絶させる様な大きな可能性を感じる。残りの大学生活も人生も、楽しんで過ごしたいと思う。



山下君



キャリアセンター

マスコミが評価する就職力。

【東洋経済 2008.10.18号】

本当に強い大学
地域別・学部別
就職ランキング

地域別
ランキング

理系工学部 中部1位 / 情報学部 中部19位



【読売ウイークリー 2008.8.3号】

就職に「超」強い大学400

総合ランキング 全学部 全国5位
学部別ランキング 工学部 全国1位

*就職決定者数300人以上の就職率

授業開発センター

本学の教育、高評価！

授業開発センターは研究授業や授業評価アンケート・学習到達度評価アンケートなどで、みなさんにお馴染みですね。授業開発センターが支援した教育活動について、最近のニュースを2つ紹介したいと思います。

授業ヒント集「みんなでつくるDITの授業」の発刊(2008.3)

2001年の4月から始まり、7年半経った今も継続している研究授業／研究会の成果を基にして、授業ヒント集を作成しました。出席のとり方、板書の工夫、コミュニケーション、授業のデザイン、といったさまざまな項目からなり、A5判で234ページとなりました。大同工業大学の先生方の研究授業の記録は、年4回発行の授業開発センター・ジャーナル「授業批評」に蓄積されています。その共通財産を活用して、「みんなでつくった」冊子ということになります。

非常勤講師の先生も含め先生方全員に渡しました。たいへん評判がよく、入試・広報部は入試説明会で高校の先生方にお配りしています。また併設高校の先生方にもお届けしまし



た。大学と高校の授業は同じではないでしょうが、授業のノウハウは共有できる部分が多いということです。好評を博しています。

協力関係にある他大学の大学教育センターにもお送りしました。多くのコメントをいただいたなかから3つを紹介します。この冊子の姿が見えてくるのではないかと思います。

○先日郵送で頂戴いたしました『みんなでつくるDITの授業』（これはバイブルです）を現在熟読中です。これはすごいです！充分参

考にさせていただきたいと考えます。

- 「出席をとる、とらない」「座席指定、自由席」「パワーポイント、板書」等、身近な疑問について大変示唆に富む内容の冊子で、大変興味深く読ませていただいております。我々のところもそうなのですが、多くの大学で作成しているFDレポートは「読まれること」や「役立つこと」を目的に書かれているのだろうか？と疑問に思っていました。しかし、この冊子はとても役に立ちます。私の大学でもこんな冊子が作れるぐらいになりたいと思った次第です。
- 気楽に第三者として拝見する分には楽しいのですが、当事者として真面目に読むと気が減ってきます。

読売新聞の特集「大学の實力調査－教育力向上への取り組み調査」で、取り組み度上位にランクイン(2008.7)

7月20日・21日、読売新聞に特集「大学の實力調査」東日本編・西日本編が掲載され、本学は教育力向上への取り組み度で上位にランキングされました。



創造製作センター

公開講座「大人のものづくり」

8月26日(火)～9月4日(木)、DIT創造製作センターで、大人のものづくり講座「アルミで作るわが家の表札」を開催しました。20人集めたこの講座では、創造製作センターの施設を活用して鑄造に挑戦。

1. 発砲スチロールで表札の模型を作る
2. 模型を砂で固め型(鑄型)を作る
3. 鑄型にアルミを流し込み、模型を溶かして、表札(鑄物)ができる
4. 機械加工する
5. 研磨して仕上げる

の工程で表札を作り上げました。

グツグツと真っ赤に溶けたアルミをみて

「おーっ！」

アルミを流し込む際、炎が上がって「おーっ!!!」

型から、表札が“ボロン”と出てきて「おーっ!!!」

と普段なかなか体験できない内容に参加者たちもすっかり童心に帰り、歓声を上げました。

世界でひとつのオリジナル表札ができ上がると、自然と拍手、そして笑顔が。

ものづくりの醍醐味を味わっていただいた時間を提供できた講座となりました。

この様子は、9月6日(土)のテレビ愛知「なごやおでかけ情報BOX」で紹介されました。



横山弥生研究室
創造製作センター
ロボット研究部

公開講座・夏休み
「ものづくり体験教室」

8月8日(金)、中日新聞主催「2008夏休みものづくり体験教室」が本学滝春キャンパスで開催されました。本学、愛知教育大学、名古屋工業大学が講座を担当。集まった小学4年生から中学2年生までの子どもはおおよそ250人。お父さんお母さんを含めると、おおよそ450人が夏休みの工作にチャレンジしました。

本学は、「本格派!メタルコースターを作ってみよう!」「本格派!アルミで作るオリジナル置物」「絵が動いてみえるってどういうこと?」「ミニロボットの操作体験」を実施しました。

参加した子どもたちには、ものづくりへの関心を高めてもらうとともに、夏休みの思い出と宿題(!?)を提供できたのではないのでしょうか…。

水野義雄教授(教養部保健体育教室)

公開講座「すくすくこども健康教室」



アルバム委員会

伊藤 彰浩

(情報デザイン学科
メディアデザイン専攻1年)

7月26日の本学体育館。

この猛暑の中、水野教授の指導のもと、子どもたちは元気に動き回っていました。ドリブルをしながらボールをジグザグに曲がるリレーをしたり、マットの上で前転したりごろごろ転がったり。また、ボールを投げたり蹴ったりしてゴールに入れる、玉入れをしていました。



ほとんど休むこともなく、からだを動かしている子どもたちのエネルギーに圧倒されました。ハンドボール部の学生スタッフも、子どもたちと仲良く楽しく運動していました。

一方別会場では、親御さん向けにカゴメ、大同病院から来た職員の方による講演会が開かれていました。皆さん熱心に聞き入っていました。講演会に参加されなかった親御さんもいらしたのですが、暑さで少し参ったのでしょうか、お子様が運動している姿を眺めていました。その眺める顔は慈愛に溢れていました。

今回の健康教室は、私にとってとても意義のあるものでした。まだ撮影については素人ですが、これからもよりよい写真を撮っていきたいと思います。



水野教授⑥



梅田礼子 准教授 (教養部外国語教室)
公開講座
「ドラマで楽しむ英文法」



6月23日、30日、7月7日の月曜3日間、名古屋市生涯学習推進センター大学連携講座を梅田准教授が担当。「ドラマで楽しむ英文法」と題したこの講座に毎回50人を超える参加者が集まりました。

教材は、梅田准教授が描いたイラスト入りの手作りテキストとアメリカホーム・コメディ「フルハウス」。

梅田准教授、関西弁の名調子で歌まで披露。大変にぎやかで、あたたかい講座を展開。その結果、英文法は英会話と違い、人気がなく、面白くない講座といわれているが、梅田講座は毎回、たくさんの質問が寄せられる講座となっていました。

高山努 准教授 (教養部化学教室)
酒井陽一 教授 (教養部化学教室)

公開講座・科学技術を学ぶ
「なごや・サイエンス・ひろば」



子どもたちが科学技術について学ぶイベント「なごや・サイエンス・ひろば」が8月30日(土)、守山区の研究開発拠点「なごやサイエンスパーク」で開催されました。

同パークには研究施設が集積しており、市

青山正治 教授 (機械工学科機械工学専攻)
創造製作センター
公開講座
「親子ものづくり教室」

7月19日(土)、本学で、地域連携講座 名古屋南区役所共催「親子ものづくり教室」を開催しました。

10年目となった今回は、3コースを開講。青山教授や創造製作センターの技術職員が講師を務め、およそ40人(親子16組)の参加者を大いに盛り上げました。

子どもたちにとって、親子で力を合わせてものづくりに取り組んだこの教室は、最高の夏休み初日となったに違いありません。



民に研究内容を知ってもらおうと、市などで作る実行委員会が毎年開いているこのイベント。パーク内にある研究棟など5カ所が公開されました。

その5カ所の棟の一画、「サイエンス交流プラザ」の中会議室で、高山准教授と酒井教授が講師を務める「親子化学実験教室～ペットボトルと鉛筆で燃料電池を作ろう～」を実施しました。事前申し込みで既に定員オーバーの人気ぶり。親子35組およそ80人(2回実施合計)が参加しました。

参加者たちは自分が作った燃料電池の電気ですべりオルゴールが鳴ると「おお～！」や「僕のも鳴ったー！」など、歓声が飛び交っていました。



■銅板をたたいてつくるミニ小物

金属板をハンマー(かなづち)で、たたいたり、曲げたりして金属の性質を学ぶこの教室。金属が伸びたり、縮んだりする性質を利用して「金属板工作」を楽しみました。

■本格派! アルミでつくるオリジナル置物

身の回りで、何気なく使われ、捨てられている、缶(アルミニウム)や生鮮食料品の包装に使われているトレイ(発砲スチロール)を材料に「鋳造」にチャレンジしました。

■竹でつくるお茶目な「トンボがえる」

新任教員
紹介



情報システム学科
准教授

朝倉 宏一

子供の頃からずっと名古屋(およびその周辺)にて活動しておりましたが、名古屋の南の方で活動するのはこれが初めてになります。日々の通勤でいろいろな名古屋を再発見しております。

学生の頃から、たくさんのコンピュータがネットワークでつながった環境(計算機クラスター)で高速な処理を実現するためのソフトウェアの研究を行ってきました。今の時代、ネットワークにも無線LANや携帯電話など、様々な接続形態があります。ネットワークにつながる計算機も、iPhoneのような小さなものから、普通のパソコン、果ては大型の並列計算機まで様々です。また、自動車にもコンピュータが搭載されネットワークに常時接続されるような時代も間近に迫っています。このような状況に対して、現在は、多種類のコンピュータが多様なネットワークでつながっている環境を効果的に活用するためのネットワーク技術、ソフトウェア技術の研究に取り組んでいます。

世の中の計算機ネットワークをよりよくするためにこれからも頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

NEWS

堀美知郎研究室（機械工学科先端機械工学専攻）

夏休みに親子でものづくり 「親子燃料電池教室」

小学4～6年生とその親御様を対象とした『親子燃料電池教室』が、昨年に引き続き8月3日(日)、佐布里緑と花のふれあい公園「梅の館」で行われました。

講師は愛知県高大連携出前授業などでおなじみの堀美知郎教授と青木真理研究員（産学

連携共同研究センター）が務めました。

青木研究員や堀研究室員（学生）の指導のもと、親子が力を合わせて燃料電池制作に挑戦。

今年はなんと午前12組・午後8組全組がみごと発電に成功！燃料電池から取り出した電力で勢いよく回るプロペラに参加者の歓喜の



声と拍手が会場を包んでいました。今年は女の子の参加が多く見られました。

また、イベント協賛の愛知県庁と出光がそれぞれTOYOTA、Hondaの燃料電池車を持参。参加者を乗せ知多の道を悠々と駆け巡りました。車体やボンネットの中を興味深そうに眺める親御様の姿が見受けられました。

建築学科

「フランス中世の建築と美術」開催



7月6日(日)本学で、大同工業大学後援特別講演会「フランス中世の建築と美術」を開催。講師にリヨン第2大学教授のニコラ・レヴェロン先生を招き、司会を佐藤達生教授（建築学科）が務めました。世界中の研究者が強い関心をもっていると言わ

れるブルゴーニュ地方の芸術遺産。ロマネスク芸術の中心に位置するブルゴーニュ地方の建物や彫刻、絵画などについて「ブルゴーニュのロマネスク美術：霊性の表現」をテーマに講演していただきました。

会場となった講義室には、本学学生・教員のほか、他大学学生・大学院生、建築史・美術史関係の専門家に加え、一般の方々など、多方面からの参加があり、定員6名のところ70名を超える聴講者が集まりました。



「建築画像処理演習」で 理事らと意見交換会

7月28日(月)、「建築画像処理演習」の最終報告会が本学白水校舎製図室で行われました。

今年度のこの授業の課題は、大同工業大学滝春キャンパスを計画地とした「DITリノベーション」。現在、お昼時にはB棟1階の食堂もゴビーホールのカフェも利用者が飽和状態になっています。今回の課題は、そのように人が無秩序にあふれ出る事態を回避するとともに、学生たちの新たな「居場所」を計画しよう、というものです。「アンケートを実施する」「面積の指定はなし」「素材・工法は自由」などいくつかの条件の下、各自が図面を仕上げました。

今回の課題が「DITリノベーション」ということで、最終報告会は、理事らを招いての「意見交換会」となりました。



建築設計Ⅰ 住宅提案会社に、プレゼンテーション。

7月30日(水)、本学白水校舎製図室で「建築設計Ⅰ」の発表会が開催されました。

この授業は毎年、建築学科の2年生対象に行っており、学生たちが住宅を設計し、模型と図面を作製、そして学外の方を招いた発表会で発表するといったものです。

今年度は、注文住宅の設計・施工、オリジナルハウスの提案等を行っている「(株)プロデュースTMY+」の方を招いての発表会ということで、発表者として選ばれた学生たちは緊張した様子。用途に合わせて間仕切りを変化させることが

学生設計優秀作品 (スーパークリエイティブ) 講評会

7月25日(金)、本学白水校舎製図室で「建築学科3年生設計課題講評会」が行われました。司会進行を山田幸司准教授（建築学科）が務め、スーパー講評者として、学外より五十嵐太郎さん（建築批評家、東北大学）、南泰裕さん（建築家、国土館大学）、松田達さん（建築家）をお招きし、学生たちの作品について講評していただきました。

この発表を行うにあたり、建築学科の3年生が「リプログラミング」をテーマに、工場の跡地をどうするかなどパターンを選択し設計。今回はその中で選ばれた11人が模型を前にプレゼンしました。カラフルな「imaging and act」や既存のパイプを柱にする「gallery」、壁面に塩を使った「SALT WATER」など個性豊かな作品が多く見られました。



できる家「自由自在に使える家」や「二階の浮いた家」、「RELEASE HOUSE」など自分たちの思いを込めた住宅を一生懸命プレゼンしました。

これらの作品は、9月1日(月)から30日(火)まで「(株)プロデュースTMY+」の展示スペースで「大同工業大学 建築学科 建築展」と題し、展示されました。



(株)プロデュースTMY+の展示スペース

大東憲二研究室 (都市環境デザイン学科)

「堀川エコロボットコンテスト」で、見事特別賞に輝く！

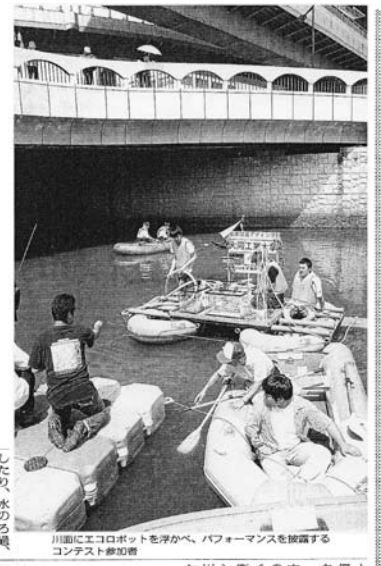
8月24日(日)、「清流の再生を夢の技術で」を合言葉に「堀川エコロボットコンテスト2008」が開催されました。このコンテストは今年で4回目。幼稚園、小学校、高等学校、大学、企業など過去最高となる70組の参加者が集まりました。

本学は大東研究室の1・4年生協力チーム「大同工大 CEED-DAITO」が「ヘドロ浄化ロボットウォーターエコ3号」を完成させ、コンテストに参加しました。

「ウォーターエコ3号」は、汚泥ポンプでヘドロ水を吸い上げ、凝集剤を添加し、ヘドロとき

れいな水に分離。その後、上澄みのきれいな水のみをくみ上げろ過。さらにきれいになった水に空気を送り込み、水中の酸素濃度(溶存酸素)を環境基準値まで上げてから堀川に戻すロボット。真っ黒なヘドロ水のみごときれいな水に戻してみせた結果、特別賞(助中部科学技術センター会長賞を受賞しました。

エントリー
過去最高の49台
北区堀川エコロボットコンテスト



川面にエコロボットを浮かべ、パフォーマンスを披露するコンテスト参加者

毎日新聞(8月25日)

川戸和英研究室 (情報デザイン学科メディアデザイン専攻)

商店街イメージポスターのデザイン提案発表会



7月29日(火)、川戸研究室の卒業研究の一環である「商店街のイメージポスター／デザイン

提案発表会」を行いました。この発表会は毎年開催されており、南区の笠寺観音商店街を活性化するためのイメージポスターと夏祭りポスターを、今年は8名の学生たちがそれぞれデザインし、笠寺観音商店街理事長や名古屋市民経済局の担当さんたちを前にプレゼンを行いました。

「今年は去年以上に優れたポスターができ、ぜひ掲出したい」という評価を頂き、8月以降、同商店街に掲出されています。

情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻 イメチェンでオシャレになる「工業大学」。

創立70周年を機に、2009年4月より、校名を「大同大学」に変更する本学。

文系の受験生にも門戸を開き、実学分野に特化した「工学・情報・デザイン」を拡大展開している現状が朝日新聞(9/22)に掲載されました。2008年4月より開設した「情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻」は新入生のおよそ半分が文系出身、女子学生比率も他学科に比べて高く、また今夏オープンキャンパスの参加者も女子が3割以上増加したと紙面で紹介しています。



高木基充研究室
(情報デザイン学科メディアデザイン専攻)

マグカップ展「PEACEなCAFE」

7月1日(火)より6日(日)までの6日間、名古屋市西区のノリタケの森ギャラリーでマグカップ展「PEACEなCAFE」が開催されました。この展覧会は、社団法人 日本グラフィックデザイナー協会 (JAGDA) が主催し、大学や専門学校合わせて14校の学生・教員が参加しました。本学からは、高木研究室14人全員の参加をはじめ、メディアデザイン専攻の学生合わせて19人がそれぞれの力作を発表しました。



トコトン先生!
大活躍!

■ 澤岡 昭 学長

小学生親子と中高校生のための
ハイテクイベントで講演

8月8日(金)、トヨタテクノミュージアム産業技術記念館で「小学生親子と中高生のためのハイテクイベント」が開催されました。このイベントで、澤岡学長は講演講師を担当。定員の100人をはるかに超える参加者へ「もうすぐ完成する国際宇宙ステーション」をテーマに、「ものづくり」に関する工学・技術のおもしろさと夢を語りました。



イベントのオリジナルTシャツを着て講演する澤岡学長

■ 大東憲二 教授
(都市環境デザイン学科)石原産業(株)「環境専門委員会」
委員長に就任

大東教授が、石原産業(株)の「環境専門委員会」委員長を務めることになりました。この委員会は、石原産業の四日市工場における土壌・地下水汚染について学識経験者の指導を得ながら調査・修復に取り組むことを目的として7月に設置。愛知土壌・地下水汚染対策研究会会長でもある大東教授が委員長に選ばれました。

活動内容としては、工場の土壌汚染・地下水汚染状況の把握に関する指導、土壌・地下水汚染に対する浄化・措置方法の立案に関する指導などがあります。石原産業は、地域住民の安全・安心を第一とした対策の確立と確実な実行に向けて全力で取り組んでいます。このニュースは、日本経済新聞(7/23)でも紹介されました。

■ 近藤 巖 教授
(機械工学科機械工学専攻)(社)日本機械設計工業会より
感謝状(2008年6月6日)

永年にわたり機械設計技術者試験講習会に取り組み、技術者の教育と試験制度の普及に貢献したことにより、(社)日本機械設計工業会より感謝状が贈られました。



■ 鈴木桂輔 准教授 (機械工学科機械工学専攻)

日本交通医学研究会学術総会で特別講演



9月23日(火)、名古屋市千種区の今池ガスビルで、第17回日本交通医学研究会学術総会が開催されました。

今回のテーマは、「事故を招くドライバ行動」

ということで、工学系から鈴木准教授を含む2人と医学系から2人の演者が招待され、特別講演を行いました。また、講演後は会場の聴講者を交えてのパネルディスカッションも開かれました。

鈴木准教授は、「眠気を伴う状態での運転の危険性」「携帯電話での通話を行いながら運転する危険性」のほかに、これらの眠気や通話による注意散漫(意識のわき見)を、森林浴の香りによって低減する方法に関する最近の研究結果について紹介しました。

会場には、全国からおおよそ300人の医療関係者や製造メーカ関係者、また保険会社の関係者が集まり、交通事故による死者数を究極的にゼロにするための具体的な方策について、活発な質疑応答がなされました。

本田技研工業(株)公式ホームページに掲載されました。

本田技研工業(株)公式ホームページコンテンツ「アフターサービスwebマガジンHonda・クルマの交差点」に自動車工学の権威として、鈴木准教授が語り手を務めました。「香りと運転の素敵な関係。～香りの成分が運転により効果をもたらす～」と題して、芳香がもたらす自

動車運転への効果等について、研究成果が掲載されました。

→詳細についてはこちら

http://www.honda.co.jp/crossing/monitor/O1_roma/report/special/

トコトン先生
大活躍!

■ 山田幸司 准教授 (建築学科)

「国土館大学・学生設計優秀作品(スーパージュリー) 講評会」で
講評者を務めました。

7月20日(日)に、国土館大学 建築学科で「スーパージュリー」と称する講評会が行われ、千葉学さん(東京大学准教授)、都留理子さん(都留



作品を覗き込み、講評する山田准教授

理子建築設計スタジオ)、横河健さん(日本大学教授)らスター建築家3人とともに、山田准教授もゲスト講師として招かれ参加しました。

この講評会は、国土館大学の2・3・4年生・大学院生のそれぞれの設計課題に関して、評価が高かった学生の案を数点ずつ選び、4人のゲスト建築家の先生および非常勤講師、専任教員方(計10人程度)によって公開講評を行うものです。

トークセッションで
コーディネーターを務めました。

10月22日(水)、ナディアパークアートピアホールで、芥川賞作家の諏訪哲史氏を交え、「JCD×DAIKO ナゴヤ・夢・デザイン」シンポジウム(定員700人)が開かれました。

この会で「芥川賞受賞作家である諏訪哲史さんと、中部の若手建築家・教員によるデザインを通して夢あふれるナゴヤ像を語りつくす」と題したトークセッションが行われ、コーディネーターを本学山田准教授が務めました。



大きなステージで紹介される山田准教授(右から3人目)

■ 鷺見哲也 准教授 (都市環境デザイン学科)

マスコミ各社で、岡崎豪雨を検証。



河川的环境や災害が主なテーマ。山地から地下水まで、水管理に関する幅広い分野を研究している、鷺見准教授。

8月末に東海地方を襲った豪雨(岡崎の氾濫)を現場調査。氾濫時の伊賀川の水位変化などを検証した記事等が、中日新聞(8/30、9/25)・

毎日新聞(8/31)朝日新聞(9/20、9/28)に掲載されました。

また、東海テレビ「ぴーかんテレビ」(9/29)・中京テレビ「Newsリアルタイム」(9/29)・メーテレ「UP!」(10/27)などテレビ番組からの出演依頼も殺到。

「ぴーかんテレビ」では、スタジオにコメンテーターとして、生出演。「豪雨に学ぶ、今できること」をテーマに、避難勧告が出たら「どこに避難するのか」「どのように避難するのか」「家族と離れ離れの時は」等について、解説した。そして最後に「普段から近隣住民と顔見知りとなることが、地域の防災力を高める」と「共助」をキーワードに指摘しました。

学生コンペ
「瀬戸グランドキャニオン」で
審査員を務めました。

毎回、全国から多数の応募がある、(社)愛知建築士会学生コンペ「瀬戸グランドキャニオン」。

このコンペの対象地区は、愛知県瀬戸市の珪砂採掘場跡地。巨大な露天掘り鉱山で、その風景の雄大さがグランドキャニオンに似ていることからそう呼ばれています。珪砂はガラス・ビンの原料で最盛期は全国の8割がこの地で採掘されていました。現在も稼働中です。この広大な土地を、将来採掘が終わったらどのように再開発するのか。現在のプランは、埋め戻して、植林するという計画。しかし、この巨大な穴を埋めるだけでも大変な事は容易に想像できますが、地下空間を利用するという発想をすれば、掘る経費の必要がない貴重な空間と考えられます。例えば、イギリス・ウェールズのC. A. T (Centre for Alternative Technology)は、廃鉱山の跡地に、エコロジーのテーマパークとして再生され、世界中から注目されています。

このような事例等を参考に、この地域の将来を見据えた全体の構想と共に、関連する建築の提案を募集するこのコンペが、9月13日(土)より第1次審査が始まり、10月18日(土)、スター建築家の藤本壮介さんと共に本学山田准教授が審査員を務めました。



トコトン先生!
大活躍!

■ 酒井陽一 教授
(授業開発センター/教養部化学教室)

「教育改革
IT戦略大会」で講演

9月2日(火)、アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)で(社)私立大学情報教育協会主催、文部科学省後援「教育改革IT戦略大会」が開かれ、多くの国公立大学・短期大学の教職員が参加しました。

その大会に本学授業開発センター長の酒井教授が招待され、講演。「教育改革推進に向けたFD活動」と題して、授業公開/授業研究会、学生による授業評価とそれに対する省察、取り組みの成果など、授業開発センターがサポートしている具体的なFD活動について紹介しました。

■ 岩木呂卓巳 講師
(情報デザイン学科メディアデザイン専攻)

CBC テレビ
「イッポウ」に出演

10月17日(金)、CBCテレビ「イッポウ」の特集コーナーに岩木呂講師が出演しました。

紅葉シーズンが近いということで組まれた特集「白山の秋」。白山を紹介するにあたり、日本国内のみならず広く海外でも里山の実態や昆虫などの生態を研究している岩木呂講師に依頼がきました。

岩木呂講師は平瀬登山道を登りながら、「低地には野菊とか名もない可憐な小さな花がある。上がってくると赤く色づいたナナカマド、さらに登ると黄色く染まったブナなどの大木に出会える」と見どころを解説。美しい大自然の中で「白山では標高差を楽しむのが面白い」と紅葉の楽しみ方を伝えました。



■ 西村政信 講師 (電気電子工学科)

「あかりの日記念講演2008」で講演



10月21日(火)、名古屋栄東急インで(社)照明学会東海支部主催「あかりの日記念講演2008」が開かれました。

その会に講師として招かれた西村講師。「自然との共生のあかり」と題して、およそ120人の聴講者に光害防止対策をした歩道橋照明の紹介と、自然環境に配慮した屋外照明の提案をしました。

■ 笠嶋 泰 教授 (建築学科)

リレートーク
『住まいのプラス1』+『Dラーニング』で講演

10月7日(火)、TOTOマルチスペース(名古屋市中区)で行われた日本建築家協会東海支部愛知地域会主催の「リレートーク」で、笠嶋泰教授が講演しました。

今回で12回目を迎えるこの講演会。日本建築家協会の会員であるプロ建築家らを対象に、すまいる愛知住宅賞の受賞作品などを素材として計画意図や設計意図を表した「建築テーマ言語」と、それらを実現している方法を抽出した「住まいのプラス1」、また、本学で行っている実際の課題を授業の課題として採り上

げ、課題依頼者に直接学生が自分のアイデアを提案する授業「Dラーニング(今年度建築学会教育賞)」について講演しました。

笠嶋教授の「住まいのプラス1」については、愛知ゆとりある住まい推進協議会20周年記念誌「住人十色」にも掲載されています。



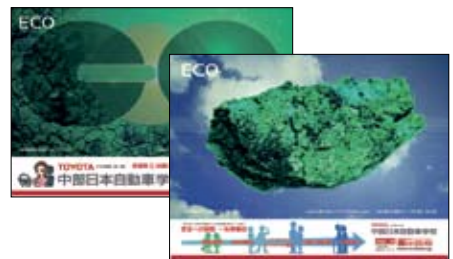
■ 高木基充 教授 (情報デザイン学科メディアデザイン専攻)

エコメッセージを地下鉄駅構内看板で配信



世界的に協力体制にある環境問題。名古屋市交通局は、公共交通機関の利用促進を通して、この問題に取り組んでいきたいと考え、エコメッセージを駅の構内看板で配信していくことにしました。その構内看板のデザインを担当したのが高木教授。高木教授は他にもエコ関連の広告を数多く手がけています。今回の構内

看板は、平成20年4月から21年3月までの1年間、栄、伏見、丸の内等多くの地下鉄駅構内で見ることができます。



「プロダクトデザイン・グラフィックデザイン・パッケージデザイン 国際セミナー」で日本のデザインを発表

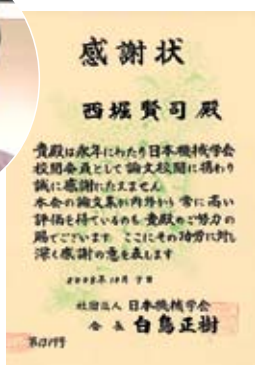
9月1日(月)から3日(水)まで、モンゴル ウランバートルでモンゴルデザイン起業家協会主催の「プロダクトデザイン・グラフィックデザイン・パッケージデザイン 国際セミナー」が開催されました。そのセミナーで高木教授がグラ

フィックデザインとパッケージデザインのセミナーおよびワークショップを担当。モンゴル国内のフリーデザイナーや学生、制作会社に勤めるデザイナー、また関連会社経営者らの聴講者たちに日本のデザインを発表しました。

■ 西堀賢司 教授 (ロボティクス学科)

(社)日本機械学会より 感謝状(2008年10月7日)

永年にわたり日本機械学会校閲委員として論文校閲に携わり、日本機械学会の論文集が西堀教授らの努力によって内外から常に高い評価を得ていることに深く感謝の意を表し、感謝状が贈られました。



■ 横山弥生 教授 (情報デザイン学科)

「日本図学会 第2回デジタルモデリングコンテスト」で 「BLOSSOM」 優秀賞

5月10日(土)、11日(日)に行われた「日本図学会 第2回デジタルモデリングコンテスト」で、横山教授の作品「BLOSSOM」が優秀賞に選ばれました。

このコンテストは、立体的な構造の考案や立体的な発想による立体形状の製作を支援し、作品発表の場を提供すること、またコンピュータを用いたデジタルモデリング技術

を普及することを目的として行われているもので、建築、工業デザイン、デジタルアート作品までを含めた幅広いジャンルの3次元モデルが対象です。

横山教授の作品「BLOSSOM」は、数理造形から生まれた作品であり、これまでの「数学モデルから幾何形状を描くこと」から、「それを3



モデリングコンテスト作品

次元化し実在するモデルにすることができたことを評価されての受賞。審査委員からは「従来の授業では、立体物にするところまで行っているところは聞いたことがない。今後の図学教育の新しい授業形態として提案できると思う」といった意見もありました。



日本図学会会長から盾の贈呈

■ 井藤隆志 准教授 (情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻)

「現代建築家・現代デザイナー連続レクチャー」で講演

6月13日(金)名古屋工業大学で「現代建築家・現代デザイナー連続レクチャー」が開催され、井藤准教授が講師依頼を受け、講演しました。

このイベントは、毎月日本中から若手の建築家やデザイナーの講師を招き、学生の頃から現在までの活動や作品の紹介、更にぎっくばらんな質問にまで答えてもらおうというもの。

今回の入場者数はおよそ200人で、8割ほどが学生。名工大をはじめとして、本学、名古屋市立大、名古屋造形大などから多くの学生、そ

の他にはデザイン関連、建築関連の一般の方々が来場しました。井藤准教授は、参加者の多くが学生ということで、自分の生い立ちからデザイン分野へ進学した経緯、大学で学んだことや作品の紹介、そして社会人になってからのデザイナーとしての活動を作品によって紹介しました。2時間半にわたる講演と質問、1時間の交流会という流れで、盛りだくさん内容となりました。



「東紀州ブレイクスルーセミナー」で ゲストスピーカーを務める

9月25日(木)、三重県熊野市の三重県熊野庁舎で「第7回 東紀州ブレイクスルーセミナー」が開かれ、井藤准教授がゲストスピーカーとして招かれました。

このセミナーは、東紀州の中小企業・個人事業主に、新たな視点や広い視野を持っていただき、現状の突破(ブレイクスルー)による新しい事業展開への取り組みを支援するために東紀州観光まちづくり公社が主催。7回目の今回は、「メイド・イン・東紀州という発想～これからの手仕事・ものづくりを考える～」と題し開催し、参加者たちは、講演や井藤准教授らゲストスピーカーとのフリートークを楽しみました。

「Nagoya Design Week 2008 ~デザインでつくるヒト・モノ・マチ~」で トークセッション

平成元年の世界デザイン会議の開催を記念して翌平成2年から設定された「デザインウィーク」。19回目を迎えた今年は、10月15日(水)から10月26日(日)の12日間、「Nagoya Design Week 2008 ~デザインでつくるヒト・モノ・マチ~」を開催しました。

今回のこのイベントの目玉である、デザインフォーラム「ものづくり中部の知られざる底力」

が10月19日(日)ナディアパークで行われ、井藤准教授がパネリストとして参加しました。このフォーラムでは、メーカー、デザイナー、プロデューサーといった各業種のパネリストが登場。様々な立場から、デザインを通して中部のものづくりの今後は提案するトークセッションとなりました。

新刊書出版

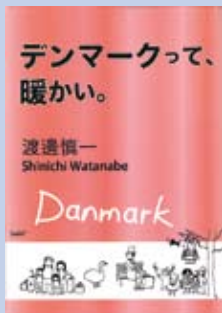
■渡邊慎一 准教授 (建築学科)

『デンマークって、暖かい。』



渡邊准教授とその家族が、北欧の国デンマークに暮らした一年間を綴る滞在記。言葉も習慣も気候も食べ物も違うアンデルセンとレゴブロックの国で、たくましく成長する子ども達と戸惑いながらもデンマーク生活を楽しむ父と母。そして、そんな家族が巡り会った様々な人々との交流が面白おかしく、ちょっと感動……で綴られています。「早起きは三台のテーブル」「仕事をきっちりこなせばバナナもOK」など目次を見ると読んでみたくなってしまふような話がいっぱい! 読んだ後はきっと、家族の大切さを感じ、心がほんわか暖かくなるでしょう。

出版社: (株)ダイテック
発行日: 2008年8月8日
定価: 2,400円(税込)



光永 猛氏を偲ぶ



大学事務部
図書館事務室長

光永 猛

(享年57歳・心不全)

着任 1973年4月1日
逝去 2008年10月21日

光永氏との付き合いは、遡ること約35年前前本部・応接室で偶然にも鉢合わせした時から始まった。(学生時代にも顔見知りではあったが)この衝撃的な出会いから、43年(学生時代を含めると47年)の付き合いが始まるのかと……

光永氏と言えば、まず仕事よりも多彩な趣味を話したいと思います。鯉、盆栽、骨董品等である。鯉に至っては、新潟、富山まで労を惜むことなく現地まで購入に行っていたと聞いていました。

次に、盆栽。尋常ではない数の盆栽に掛ける水まき、1年間365日の事で奥様も巻き込んで大変だったと思います。(一泊の家族サービスも出来ないかと嘆いていました。)

そして、仕事に対しては在職期間35年に亘り常に前向きであり、教務室、図書室

そして初の大学院担当室等では率先して業務改革を進め、合理化等に尽力をつくされました。

ただ、大同工業大学をこよなく愛するがため、大学をおもうがあまり、時には行き過ぎだと思ふくらいの情熱を持って行動することもしばしば見受けられました。同世代の私達もおおいに刺激を受け見習うべきだと痛感しておりました。

健康に関しては、私のほうが常に健康診断で精密検査の文字が多かったので自分の事のように心配をしていたいただいた事を思い出します。

最後になりましたが、光永氏との関係…奇妙な関係? 男同士の強い絆で結ばれていた訳でもなく、もちろん恋愛感情など一欠片もない。ただ、気がつけば鬱陶しいくらいいつも側にいた。(いてくれた。)

今でも、大同町駅のホームに立っている、買い物袋(ビニール袋)を持った光永氏が声を掛けてくるのではないかな。いや、かならずや声を掛けてくれると思っています。(高校事務室長 不破敏雄)

人事

- 退職【大学】〈教育職員〉(H20.8.31)
ハロルド J パワーズ(教養部 外国語教室 特任教員)
- 採用【大学】〈教育職員〉(H20.9.1)
朝倉 宏一(情報学部 情報システム学科准教授 併任 情報学部 情報学科准教授)
- 【大学】〈特別嘱託職員〉(H20.8.1~H21.9.30)
飛田 乾向(大学事務部 研究・産学連携支援室)
- 死亡退職【大学】〈事務職員〉(H20.10.21)
光永 猛(大学事務部 図書館室長)
- 異動【大学】〈事務職員〉(H20.10.24)
相原 美輝(大学事務部 図書館室長)

編集後記

DAIDO CAMPUS (大同工大キャンパス)を卒業生の皆さまにお送りするようになって、2年が経ちました。皆さま、どのようなご感想をお持ちでしょうか?

先日、電気工学科卒業生の方より、電話をいただきました。“同窓会の席で本誌が話題になった”とのこと。…嬉しかったです。

どうか、ご意見・ご感想・ご指摘等、お電話・メール・FAX等でお寄せください。

本誌が皆さまにとって、ふと母校を想う契機になればと考えております。

今後とも、どうぞ、よろしくお願いたします。



DIT スケジュール



11月

- 25(火) DAIDO CAMPUS No.66発行
- 28(金) 女子学生就職ガイダンス
:3年次生

12月

- 8(月) 第14回就職ガイダンス
:3年次生(～12/12)
- 14(日) 入試対策セミナー
- 16(火) 第7回就職ガイダンス
:2年次生(～12/19)
- 23(火) 特別奨学生・M方式入試、
クラブ推薦(Ⅱ期)入試
天皇誕生日
- 24(水) 補講日(～12/25)
- 26(金) 冬季休業開始(～1/3)

1月

- 1(木) 元旦
- 3(土) 冬季休業終了
- 6(火) 成績報告期間
(OCR～2/4、Web～2/10)
成績単位票(OCR)配付
第15回就職ガイダンス
:3年次生(～1/9)
- 7(水) 第8回就職ガイダンス
:2年次生(～1/9)

- 12(月) 成人の日
- 13(火) クラブ活動報告会
- 17(土) 大学入試センター試験
- 18(日) 大学入試センター試験
- 19(月) 通常期末試験(～1/23)
- 24(土) 前期A方式、センターMIX A方式入試
- 25(日) 前期B方式、センターMIX B方式入試
- 26(月) 特別期末試験(～1/30)
- 31(土) 期末試験予備日

2月

- 2(月) 追・特追試験(～2/4)
特別集中補講(～2/6)
- 9(月) 卒業研究発表(～2/10・12・13)
- 11(水) 建国記念の日
- 17(火) 修士論文発表会(～2/19)
- 20(金) 成績・履修状況一覧表配付
- 23(月) 試験結果通知書配付
異議申請受付(～2/24)
学修指導期間(～3/18)
- 25(水) 中期・外国人留学生・委託学生・
再入学(Ⅱ期)試験

3月

- 3(火) 大学院(修士)入試 成績確定日
- 4(水) 大学院(博士)入試
- 11(水) A O入試(Ⅱ期)(～3/12, 23)
- 19(木) 学位記授与式 卒業パーティー
- 20(金) 春分の日
- 21(土) 春季休業開始
- 24(火) 履修登録期間・履修ガイダンス
(～3/27)